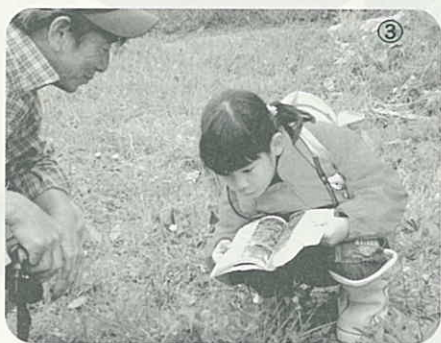


子ども達は命に触れ、
生と死に関わることで
大切なことを学びます。

生き物たち とのふれあい

～命の尊さへの気づき～



この活動の流れ

活動	声のかけかた
: 導入： 出かける前の お話し 写真①	生き物、動物の絵本は、とりわけ子ども達の関心を惹きます。また、虫捕りや魚捕りに行こうという促しは、否応なく盛り上がることでしょう。
: 本体： 生き物は、もちろん捕まなくても触るだけでも色んな生き物とそれを見させてあげます。写真②	子どもが興味をもつ色んな生き物を、大人が嫌がってはそれが影響してしまわないように無理はせず、強い拒絶は避けて、一緒にその生き物について調べたり、子どもの発見に共感しましょう。
: まとめ： 生き物に持つ執着は、良い形で継続させてあげましょう。写真③	生き物を飼いたいという子を強引に否定してはいけません。飼うことで学ぶことはとても多いからです。
: 発展： 生き物を飼ってみましょう。最初は小さな動物から、次第にウサギや犬など、大きな動物との深い関わりを与えてやってください。	

昨今、虫を過剰なほど嫌がる**Point 1** 子が多いのですが、森林に入ると必ずといってよいほど昆虫達とのふれあひがありま**Point 2** す。幼児の頃から**生き物とのふれあひ**を続けていくと、生き物を愛する心はずっと良く育まれるのではないのでしょうか。

初夏の森林で「なんだか夏の声が聞こえる」とみんなが言いました。それはエゾハルゼミの蝉時雨です。それを知ると、みんな一斉にセミの抜け殻を見つけ出しました。「目(の部分)もある!」「透明だ!」と驚く子ども達。「どうやって脱いだんだろう?」「捕ってみたい!」**Point 3**

みんな目を輝かせています。カメムシを手に乗せて臭いをかいだ子が顔をしかめています。土の壁に空いた穴を「リスがいるのかも」と探求する子もいます。

様々な虫たちと出会い、知らなかったことに触れたりびっくりしたり、違う生き物とのふれあひは、世界に生きているの**Point 4**

が人間だけではないことや、それらの生き物と支え合って生きていくことの大切さを学ぶために、大切な礎になります。ある時、森林の小川でつかまえた小さな魚達を、みんなが「持って帰りたい」と言い、相談した結果連れて帰ることになりました。帰ってからみんなは気になって、水槽をのぞき込んだり、魚に触ったりしています。翌日、半分以上の魚が**Point 5** 死んでしまっている姿を見て子ども達は泣きそうな顔です。先生は「どうして死んでしまったと思う?」と子ども達に考えてもらうことにしました。みんなは魚の気持ちになって色んな事を考えている様子です。子ども達はそんなやりとりの中から、自分たちが何をしてしまったのか、**Point 6** 死ぬことってどんなことなのか、生き物たちの死に触れることで初めて、子ども達は大切なことをたくさん理解したのです。

ここのポイント！

この活動の環境教育的効果はここにある！

Point 5

泣きそうな顔

→ **好きになり
大切にする**

自分と関わった生命は子どもにとって特別な存在になります。それが死んでしまう悲しみは、子ども達の心に豊かな情緒と命を大切にする心を育みます。

Point 1

虫を過剰なほど嫌がる

→ **知識と観察する力**

これは、親の虫嫌いが刷り込まれていることが多いようです。虫や自然に触れないことは、それだけ好奇心や観察力を育てる機会をなくしてしまいます。

Point 3

透明だ！

→ **好奇心を育てる**

子ども達の好奇心には目を見張るものがあります。それはあらゆる物に向けられますが、生き物が引き出す幼児の好奇心は無限大です。

Point 2

生き物との触れあい

→ **多様な視点
と考え方**

生き物はコンピューターのような拘子定規な反応をしません。生き物は、子ども達に考える余地を与え、多様な視点と考え方をもたらします。

Point 6

死ぬことって
どんなこと

→ **死を感じる**

最近死を遠ざける教育が主流ですが、死を実感することで初めて生を知り、命の大切さを実感できるのです。

Point 4

死んでしまっている

→ **命を大切
にする心**

捕まえた生き物を死なせてしまうのは、命・自然・資源が有限の物であることを認識させます。そしてそれらと自分とのつながりを意識できます。

森林について

好きになり大切にする

知識と観察力をつける

自分とのつながりに気づく

心身の発育について

感覚と感性を育む

身体能力を育む

好奇心を育む

心のエコロジー

コミュニケーション能力を育む

多様な価値観を育む

主体性や自尊心を育む

その他 多様な視点と考え方 命を大切にする心を育む 死を感じる

この活動の
環境教育的
な要素



同じ重さ



ワシは
このくらい。

森の鳥さんたちの仲間。スズメの大ききのヤマガラはこうじゃ。最近のイチゴはすごくでかいものがあるが、こいつは中くらいの大ききじゃ、どっちが重いかな。この子は一六グラム。イチゴは一五グラムなのじゃ。おんなじくらいの大ききなのじゃ。みんな想像はつくかな？イチゴとおんなじ重さの鳥さんたちがとんでるんじゃぞ。鳥さんはイチゴと同じ重さなんて考えたことがあるかな。ヤマガラさんの半分以下という重さの鳥さんもあるのじゃ。

みんなはイチゴが大好きじゃろう。空とぶイチゴを想像してごらん。なんだがおかしいな。森の鳥さんとイチゴを比べてみた。

イチゴと
コトリ

は森の
はの
し



その⑤

冬の森林遊びは
子どもたちにとっては
遊園地みたいなもの。
冬こそ本番です。

森の雪遊び

～身体能力を育てる～



①



③



②

雪の上で遊ぼうと思っても
知らず知らずのうちには
体力がつかまります。

冬は何かと外に出るのがおっくうですが、冬こそ森林は自由な遊び場^{Poi nt 1}に変わります。子ども達は冬こそ外遊びに大喜びなのです。寒いのでスキーウェアに身を固め、「北風小僧の寒太郎」の歌を振り付きて歌いながら森林にでかけます。いつもはササだらけで^{Poi nt 2}登山道以外は歩けない森林の中も、雪が積もればどこでも行けます。^{Poi nt 3}軽いので雪に沈まない子どもたちは、好きな場所を泳ぐように歩いてゆきます。そのうち動物の足跡を見つけた^{Poi nt 4}子ども達、早速相談して、道を外れて動物の足跡を追うことに決定です。立って歩くと沈んでしまう子ども、四つん這いになるとらくらく進めます。ずんずん山を登った後は、斜面を見つけて

お楽しみのはじめは「怖い」と言っていた子どももすぐに「楽しい」の歓声に変わっていき、「何十回も長靴が埋まっちゃった」と言いながらも遊びをやめようとしません。
そうこうしているうちに木に登る子どもが出てきます。^{Poi nt 6}夏は危険な遊びですが、雪がたくさん積もっているから落ちてけがをする心配の必要がありません。びしょぬれになっている子ども達も、濡れているのは雪のせいなのか汗のせいなのか分からなくなっています。
大きな木の根元のウロを調べる子どももいます。「ここにはクマが冬眠しているかもしれないよ」「こっちは穴は小さいからリスのおうちだね」冬の森林でなくては感じられないこと、できない遊び。森林はいつでも子ども達の好奇心と遊びの心をいっぱい受け止めてくれます。

この活動の流れ

活動	声のかけかた
: 導入： 出かける前のお話 写真① 出発 : 本体： 雪の上では子どもから遊びが自然に始まります。 写真②③ 木登りや尻滑りで注意が必要。	「尻滑り」「木登り」「雪合戦」は子どもたちの気楽な言葉遊びです。冬にはたくさんに遊びを促します。 雪の上では動物の足跡や小鳥の巣も観察しやすいです。生き物の気配を感じながら子ども達が自然に見つけていく遊びに混ぜましょう。木登りや尻滑りは大人が積極的に遊び始めてもよいと思います。尻滑りは、スピードの出し過ぎは避け、前の子に衝突しないように気を付けます。

発展：
雪は優れたクッションです。木に登っていて落ちても、転んでも大丈夫。普段危険で遊ばない遊びにもチャレンジしてみませんか？

ここがポイント！

この活動の環境教育的効果はここにある！

Point 5 尻滑り

→ 脳の活動を 活発にする

冬だけの遊び。坂を登る苦し
さの後に滑るといふ楽しさを感じ
られますし、危険の中に潜
む楽しさに身を置くことは、
脳内物質の分泌を活発
にしてくれます。

Point 1 自由な遊び場

→ 情操の安定

自由に遊び回することで、子
ども達はストレスを発散し、
情緒を安定させることがで
きます。だから森林の中
ではケンカが起こり
ません。

Point 3

どこでも 行けます

→ 身体能力を 育てる

雪は歩くために適度な抵抗
と不安定感をもたらします。
バランス感覚、体力など、
身体的な発達を促し、こ
れは知能の発達につな
がります。

Point 2

いつもはササだらけで

→ 多様な価値観

いつも歩いている場所も、
雪が積もってから行けば新し
い気づきや発見があり、一
つの物が多様な側面を持
っていることに気づか
されます。

Point 6 木に登る

→ 感覚と感性 を育む

木登りは身体能力を飛躍的
に高めます。また、枝を握っ
たり木の肌に触れることは
幼児期の脳に刺激を与え、
感覚統合を促します。

Point 4

動物の足跡

→ 知識と観察 の力をつける

動物の気配が強く感じられ
るこの季節は、森林という環
境に様々な生き物が生きてい
ることを感じさせます。
それは、森林を大切に
感じるきっかけです。

森林について

好きになり大切に

知識と観察力をつける

自分とのつながりに気づく

心身の発達について

感覚と感性を育む

身体能力を育む

好奇心を育む

心のエコロジー

コミュニケーション能力を育む

多様な価値観を育む

主体性や自尊心を育む

その他 情操の安定 脳の活動を活発にする

この活動の
環境教育的
な要素



たぬきの足跡じゃ。



たぬきの足じゃ。

足あとや雪の上についているので冬
はよくわかるもんじゃ。夏にも足あと
のつきやすいところがある。それほど
こじゃ。雨のあとがいい。そうじゃ、
泥の上なのじゃ。泥の上をよく見て
ほしい。誰の足あとがついているかな。
足あとをつけるのは森のキツネさんや
タヌキさんだけかな。足のあるのは、
鳥も虫もいるのじゃ。ミニヌさんのほ
ったあともあるぞ。そうじゃ。それに
雨のあともついでとるぞ。ポツポツと丸
いあとがつく。泥は森の日記帳なのじ
ゃ。なんと書いてあるかちょっとど
かせてもらおう。

森の日記帳
を見てみるのじゃ

その⑥

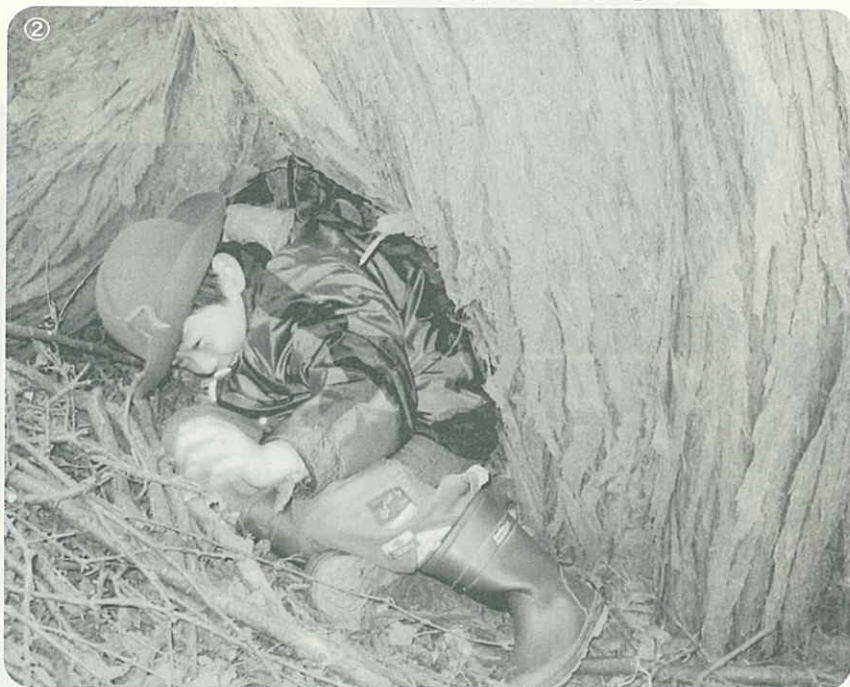
は森の
たのし
し



ごてんをさがそう

～想像力と好奇心～

木の穴は
色々な動物の「御殿」。
みんなが見つけたのは
だれの御殿？



この活動の流れ

活動	声のかけかた
: 導入： 出かける前のお話 写真①	ずいり「ごてんにすむのはだれ？」を讀んであげるとよいでしょう。
出発	森林に着いたときには子ども達の目はもうごてんさがしに集中しています。
: 本体： ごてんさがしそのほかの生き物さがし 写真②③	上手にキリッキヤネズミの生活の痕跡を見つけて、子ども達の興味を膨らませてあげられると良いですね。
: まとめ： 帰ってきたときのお話	みんなが遊んだところには色々な生き物が住んでいるというお話をしてあげても良いかもしれません。
: 発展： この活動から生き物の世界へつなげるのは簡単なことです。動物園などを使って森林の自然への興味を引っぱりましょう。	

木の穴は大切なのかな。
どうして大切なのかな。
無くるとどうなるかな。

森林に行くとき、小さくまな木の穴を見かけます。多くの場合、木の穴は何かしらの動物が利用するものです。そんな穴だからこそ、一度惹きつけられた子ども達の興味は離れません。

「ごてんにすむのはだれ？」という絵本の人気が高まっているとき、みんなが森林に出かけていきました。Point 1 バスから降りるとみんな先生を追い越す勢いで歩いているときも「へびさんいるかなあ」と、生き物の姿を探す子ども達。Point 2 木のウロ（ごてん）を見つかるたびに

「ごてんよごてんよ、すんでいるのはだーれ」と歌いながら覗き込む子ども達の目は、本当にキラキラと輝いています。これはキツツキのごてんだ」「穴

がたくさん空いているのはミツバチじゃない？」こんな会話が自然と聞かえてきます。そのうち一番大きなごてんを見つけると「これは絶対クマのごてんだよ」「じゃあ、札幌にもクマがいるの？」「先生のそばから離れるな」子ども達は絵本の世界に入り込み、現実の世界と結びつけてさらに想像を膨らませていきます。Point 4 こんな時、子ども達の空想

力Point 5 にとっても感動します。大きな手のひら型の葉っぱを拾って「天狗の葉っぱだ！（だるまちゃんとしてんぐちゃんより）」と大喜びする姿。ササの葉の上にいるカタツムリを「キララさんだ（やなぎむらのおはなし）」と呼ぶ姿。森林に遊びに来ているはずなのに、発見の一つ一つが絵本の世界に通じているPoint 6 ことを、改めて感じました。

ここがポイント！

この活動の環境教育的効果はここにある！

Point 5
空想力

→ 環境問題に気づく力

空間軸と時間軸を拡大することは、環境問題を考える上で重要です。そのために正しい空想力は欠かせません。

Point 1

ごてんに
すむのはだれ？

→ 空想力を育くむ

森林とのつながりの入り口は空想力です。絵本をきっかけにして、子ども達の空想力は大きく広がります。

Point 3

これはキツツキの

→ 論理的な思考を身につける

子ども達は与えられた材料から、科学的な答えを導き出そうとし始めます。空想が科学的・論理的な思考を生み出します。

Point 2
へびさん
いるかなあ？

→ 好きになり大切にする

絵本を通して子ども達の興味は生き物に向きます。子ども達は自然が大好きです。良いイメージを持ってもらうことで、森林の中で広がる世界も違います。

Point 6

絵本の世界に
通じている

→ 社会をシミュレーションする

幼児特有のごっこ遊びは、社会生活の高度なシミュレーションです。それを支えているのが絵本というファンタジーの世界なのです。

Point 4

現実の世界と
結びつけて

→ 感覚と感性

空想と現実を行き来することはとても大切です。それは思考のリズムを作り、また、空想世界と現実の境を明確にしていきます。

森林について

好きになり大切にする

知識と観察力をつける

自分とのつながりに気づく

心身の発育について

感覚と感性を育む

身体能力を育む

好奇心を育む

心のエコロジー

コミュニケーション能力を育くむ

多様な価値観を育む

主体性や自尊心を育む

その他 空想力を育む 論理的な思考を身につける 環境問題に気づく力 社会をシミュレーションする

この活動の
環境教育的
な要素



この船のおかげでアイヌの人たちは
ずいぶん助かった。こんど森に行った
時、神さまにお礼のことを言ってほ
しいのじゃ。お返し言葉が森から聞
こえてくるかもしれないぞ。

キツツキさんの穴にもいろいろある
のじゃが、こんな大きな穴もある。こ
れを掘ったのはカラスほどもある大き
なキツツキなのじゃ
穴がみんなくっついてしまったところ
を切り取って、水に浮かべるとどう
じゃな、そうじゃ丸木舟じゃ。昔から
北海道に住んでいたアイヌの人たちは、
これをみて丸木舟を作り始めたとい
うのじゃ。木に穴をほったキツツキさん
を、丸木舟をつくることを教えてくれ
た神さまとして、大切にしているの
じゃ。

幹爺さんの
は森の
はしのし

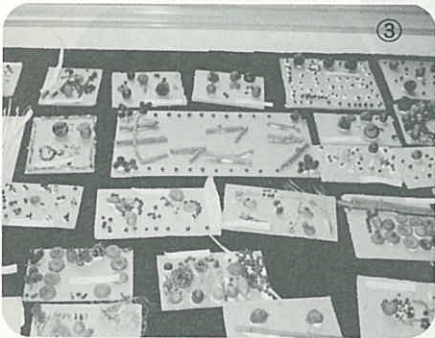
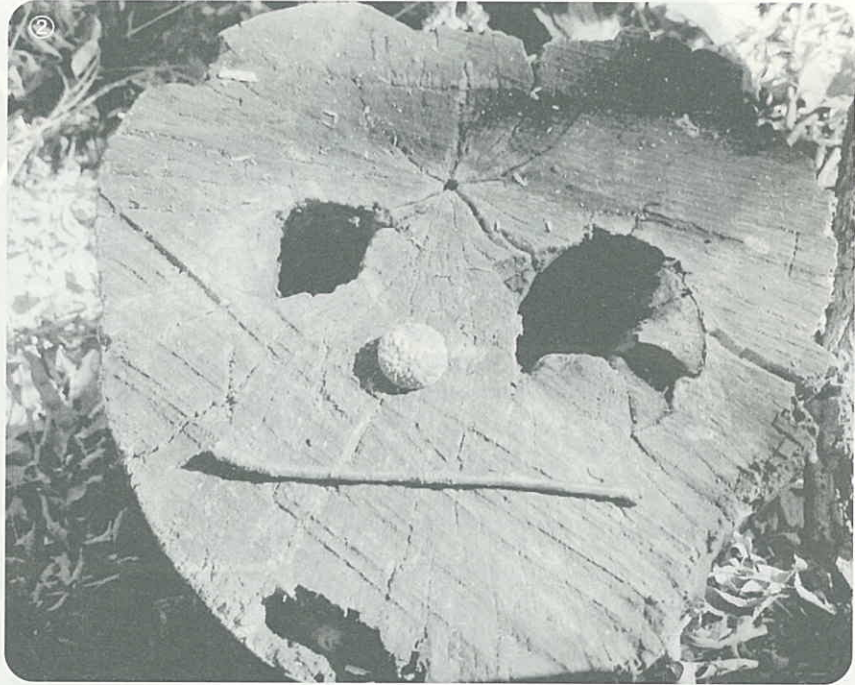
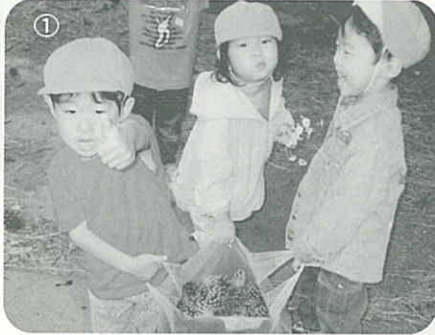
キツツキが
丸木舟を掘る？

その⑦

森林のものから
自分の思うままの
形を作る。

造形遊び

～創造する力～



子ども達は心そのままにものを作ることが
できます。それは、森林の中においても
部屋の中でも変わらない、子ども達の想
像力が形になる、**Point 1** 魅力的な遊びです。
ペットボトルを切つて紐をつけたお手
製のポシエツトを下げて森林に行くと、
木の実や葉っぱなど、**Point 2** **いろんな材料**
がいっぱいに詰め込まれます。その場で
松ぼっくりに葉っぱを差し込んで「ウサ
ギだよ」と言っている子もいますし、葉
っぱを帽子に差し込んで自分がウサギに
なってしまう子もいます。
Point 3 ペットボトルポシエツトに詰め込んで
持って帰ってきた色んな材料は、同じ物
を箱に分けて分類しておく**と良い**

この木の実、
何かに似てるかも。
この枝使つて
何か作れそうだよ。

◎ この活動の流れ

活動	声のかけかた
：導入： 出かける前のお話	「ふゆめがっしょう だん」や木の実の絵 本など、自然と造形 の絵本がお薦めです。 大人が作った素敵は 工作を見せるのもや る気を喚起できるか も。
出発	子ども達が興味を持 ったものは基本的に 認めて採取しますが、 腐る物はその場で工 作しましょう。 室内の工作では、見 本はあっても、自分 の作りたい物を作ら せてあげるとよいで しょう。
：本体1： 色んな木の実 や木の枝を拾 います。写真①	
：本体2： 拾いながら、 見つけた物で 形を作って遊 びましょう。 持って帰って この工作も良い でしょう。写真②	
：まとめ： 品評会 写真③	みんなで作った物を 並べて鑑賞しましょ

：発展：
造形に興味を持つ子がいたら、次は絵
を描いてみたり、粘土で物を作ってみ
たり、色んな広がりを経験させて
みましょう。

しよう。これらの材料は室内でも素敵な
工作に変身します。適度な大きさに切つ
た段ボールに麻布を切つて貼り付けた台
紙に、松ぼっくりやどんぐりや、オオウ
バユリの種、木の枝**Point 4** を使つて自由に
貼り付けていきます。子ども達の想像力
がとても素敵で、**世界でただひとつの作
品****Point 5** が次々に生まれていきます。
拾ってきた面白い形の石は、そのまま
絵の具を塗ってお人形に。石の形を魚や
動物に見立てて**Point 6** 色を塗るので、子ど
も達の想像力はいつそう増していくよう
です。森林にある様々なものが子ども達
の心を育てるのだなということが、改め
て分かります。



ここがポイント！

この活動の教育的効果はここにある！

Point 5
世界でたったひとつ

→ 主体性と自尊心

森林の材料で作られるクラフトはどんなに真似しても世界でたった一つの自分だけの物。それをほめてあげることが、自尊心を育てる貴重なきっかけです。

Point 1
想像力が形になる

→ 実現する力

自分で想像したことを現実にするには、簡単なことではありません。考えたことを形にする作業は、希望を現実化する良い練習になります。

分類 Point 3

→ 知識と観察力をつける

材料を整理整頓して使いやすくするだけでなく、分類という科学的手法を知らないうちに実践できます。

Point 2 いろんな材料

→ 自分とのつながりに気づく

森林の中で見つける物を様々な形にすることは、森林が資源であることを認識できる良い機会です。これを機に様々な森林資源に目を向けることができます。

Point 6
魚や動物に見立てて

→ 空想力を育てる

ただの石ころですが、そこから様々な世界を膨らませることができます。自由な発想を育てます。

Point 4

→ 自然の多様性への気づき

子どもが何かを作れそうだと思う物はたくさんあります。それらは全て森林から生まれたもので、並べるだけでも、森林の多様性を知ることができます。

森林について

- 好きになり大切に
- 知識と観察力をつける
- 自分とのつながりに気づく

心身の発達について

- 感覚と感性を育む
- 身体能力を育む
- 好奇心を育む

心のエコロジー

- コミュニケーション能力を育む
- 多様な価値観を育む
- 主体性や自尊心を育む

その他 実現する力 空想力を育てる 自然の多様性への気づき

この活動の環境教育的な要素



キツキさんの工事は木の中にいる虫さんの子どもじゃ。いろいろな虫さんがいるが、ある虫さんは、やわらかくなった木に親がたまごを産む。子どもはやわらかいところを食べていく。ごほんの中にトンネルをほってくらしているようなものなんじゃ。キツキさんはそのイモムシさんが大好きじゃ。

木が入り込んだキノコが木の中で増えいくと、かたい木がウエハースのようになってしまうのじゃ。キノコが木のおいしいところを食べてしまうのだ。ワシらだっておいしくはないが、ホリホリ食べることもできるぐらいじゃ。やわらかくなった木は、簡単に穴をほることができる。キツキさんの巣穴はこういう木を選んで掘るので、穴をどんどんほることができるのじゃ。

木がやわらかい？

幹爺さんの森のはなし

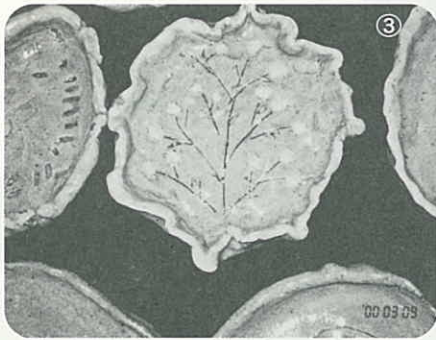


その⑧

土遊びは
すまいと生活の基準を
子ども達に
学ばせてくれます。

土で遊ぶ

～生活と文化～



この活動の流れ

活動	声のかけかた
土を見れば子ども達も遊び始めます。大人は邪魔しなだけで十分楽しめます。写真①②	泥遊びをさせるための声かけは必要ないかもしれません。泥で遊び始めた子どもを、汚れるからと止めてしまうことを我慢しましょう。
子ども達の遊びを形にしてあげると遊びが生き生きと密着します。写真③	男の子が作る土の街や、女の子のおまると、集中力の要る泥団子、大人は側にいて子どもにうたがいてやるだけでも良いでしょう。もちろんだれでも一緒に泥だらけになって遊ぶのが大好きです。

※発展：道具にまで昇華した土の姿を見せたり、道具を作らせてあげてそれを使うと、土と自分が密着します。焼き物はその意味が深いです。

みんなが使っているお皿、道路のコンクリート、実はみんな砂や土なんだ。
乳児を外に連れ出すと、まず土を握り、口へ持っています。外界の物は全て知らないのですから当然です。でも、慌てることはありません。3度口にしたからです。かえって、その好奇心の旺盛さを喜ぶべきでしょう。
Point 1 そして幼児期は土遊びが大好きです。**でも遊び方はどんどん変わっていきます。**
Point 2 ひとくちに土といっても場所によってかなりの違いがあります。森林の中の腐葉土の多いふわふわとした土。多くの人に踏まれた固い土など、**色々な土を足の裏、手のひらで感じ、その性質を学習していく**のです。母なる大地の土を手でなで、手で丸め、水を加え、どろどろの泥遊びは

是非幼児期に体験してほしい遊びです。これができる時期は長くないからです。幼稚園の園庭では、常に誰かが泥遊びをしています。狭い園庭のどこの部分に粘る土があり、それにどこの乾いた土をかけていくと光る泥団子ができるか、子ども同士の情報交換がなされています。
1時間もかけなければできない「光る泥団子」に夢中になって遊べる
Point 4 のはこの幼児期の特徴です。丸い泥団子に握り拳を入れて乾かせば、素焼きのような器ができていきます。**Point 5** 昔の人は泥に麦わらを加えて土壁を作ったのです。いわゆる住まいの原形がここにあります。**Point 6** 人間の生活の基は自然の中にあることを言葉で教えるよりも体験していれば、後に機会がやってきた時に、しっかり理解できることでしょう。土・泥で遊ぶ体験を幼児期にはたっぷりさせてあげたいものです。

ここがポイント！

この活動の環境教育的効果はここにある！



Point 5
素焼きのような器

→ **自然資源とのつながりを知る**

土遊びの時、昔の住居は土壁だったことなどを話すと、土が自然資源であることや生活の関わりに興味がかかります。

Point 1
好奇心の旺盛さ

→ **好奇心を育む**

乳児や幼児に最も大切なこと。知らないことを体験して一つ一つ覚えることが学習への最も早道です。そのための好奇心を育てる心は大人の方が忘れがちです。

Point 3
足の裏、手のひらで

→ **感覚と感性**

多様な土が与えてくれるのは多様な感触です。特に触覚を中心にして五感を刺激し、癒しを与えてくれます。

Point 2
どんどん変わっていきます

→ **多様な価値観**

興味の対象は次々に変化してゆきます。土はその変化を余すところ無く受け止めるだけの変化を持つ、良きおもちゃでもあります。

Point 6
人間の生活の基は自然の中にある

→ **自分とのつながりに気づく**

土で遊んでいるうちに、それはおままごとであったり土の造形を借りて生活の遊びが出てくるようになります。土と生活のつながりへの気づきです。

Point 4
1時間もかけなければ

→ **集中力と探求心**

1時間もの間、子ども達を集中させる力が土にはあります。土が様々な形に姿を変えることで、子ども達の集中力と探求心を育てます。

森林について	心身の発育について	心のエコロジー
好きになり大切にす	感覚と感性を育む	コミュニケーション能力を育む
知識と観察力をつける	身体能力を育む	多様な価値観を育む
自分とのつながりに気づく	好奇心を育む	主体性や自尊心を育む
その他 集中力と探求心 自然資源とのつながりを知る		

この活動の環境教育的な要素

は森のし 幹爺さんの

舌のひみつ

キツキさんは木をつついて、木の中にくらす虫さんのトンネルを見つめる。さて細長いトンネルの中にくらす虫さんの子どもをどうやって食べるのかな。いちいち虫を口に入れるまで、木をつついてこわしては木を太く。どうやって口までもってこえるのかね。

キツキさんの舌はヒモみたいになっていて長いじゃ。舌をトンネルの中の虫さんのところまで入れるのじゃ。そしてキツキさんの舌の先はカギになっておって虫さんのことイモムシさんを釣り上げるというわけじゃ。

トンネルだけじゃなくて、木の皮のすきまにも小さな虫やクモがいる。それもその長い舌でひっかけれる。舌はネバネバしているから、小さなものはそれでネッパッテ、舌にくっつけるということができる。すごいじゃろうが。

キツキさんの舌じゃカギになっとるじゃ。